

新生児集中治療室における看取りケア —看護師の満足度と自責感—

齋藤沙織 1) , 涌水理恵 2)

1) 岩手県立大学看護学部

2) 筑波大学医学医療系保健医療学域発達支援看護学・発達看護学

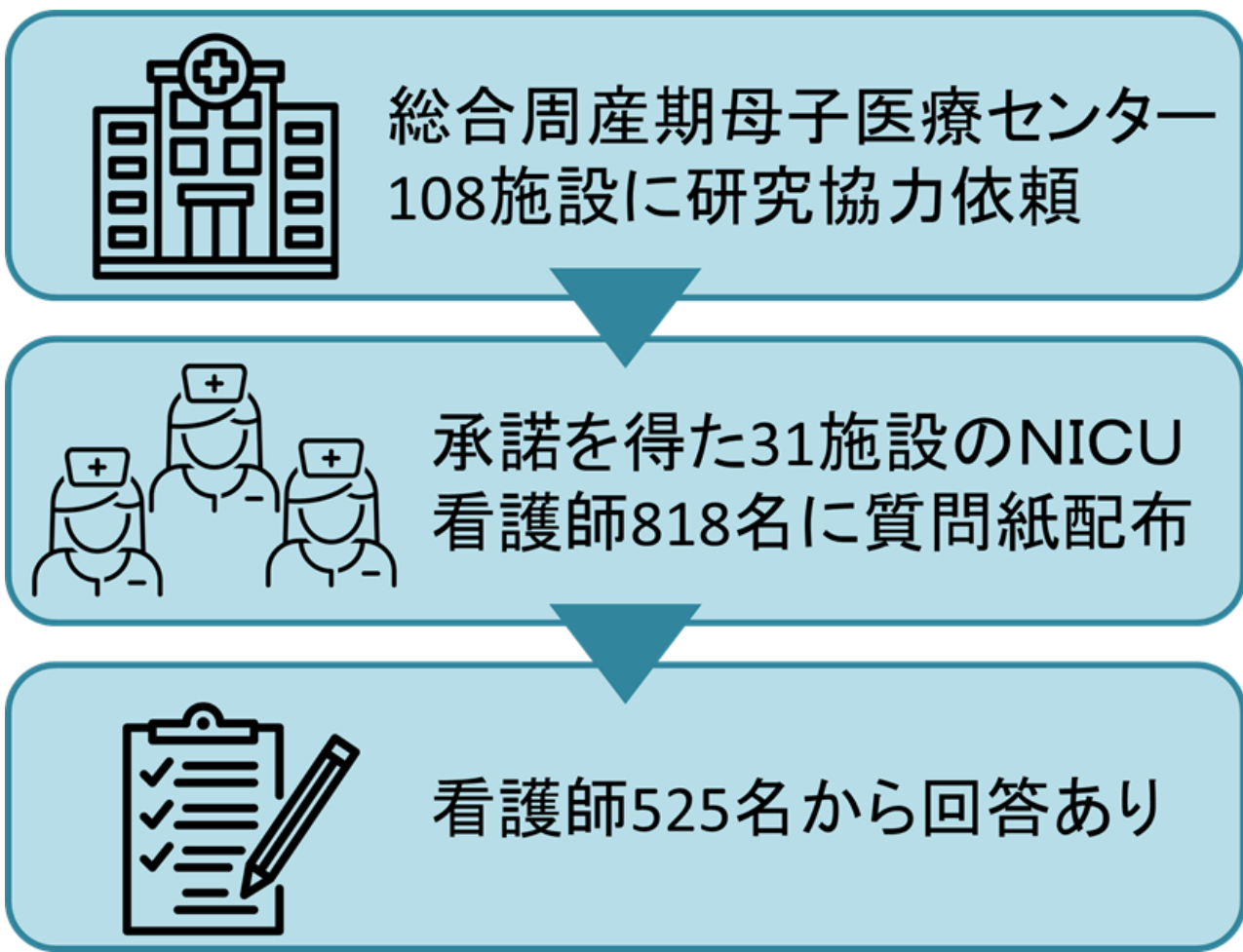
背景

- ・国内において周産期医療は発展し新生児の死亡率は低下しているが、可能な限りの治療を行っても予後不良な子どもがおり、**新生児集中治療室（NICU）においても、子どもの死を避けられない。**
- ・子どもの看取りは**家族だけではなく看護師にも悲しみをもたらし、情緒的負担と職業満足度に影響を及ぼす**可能性がある。
- ・NICU看護師は、子どもの看取りケアにおいて**苦悩や戸惑いのような困難感を抱いている。**

本調査は**NICU看護師の看取りへの自責感と満足感の関係および満足感を得られる状況を理解する**ことを目的しており、NICU看護師の看取りケアへの困難感軽減の方策を検討する一助となると考える。

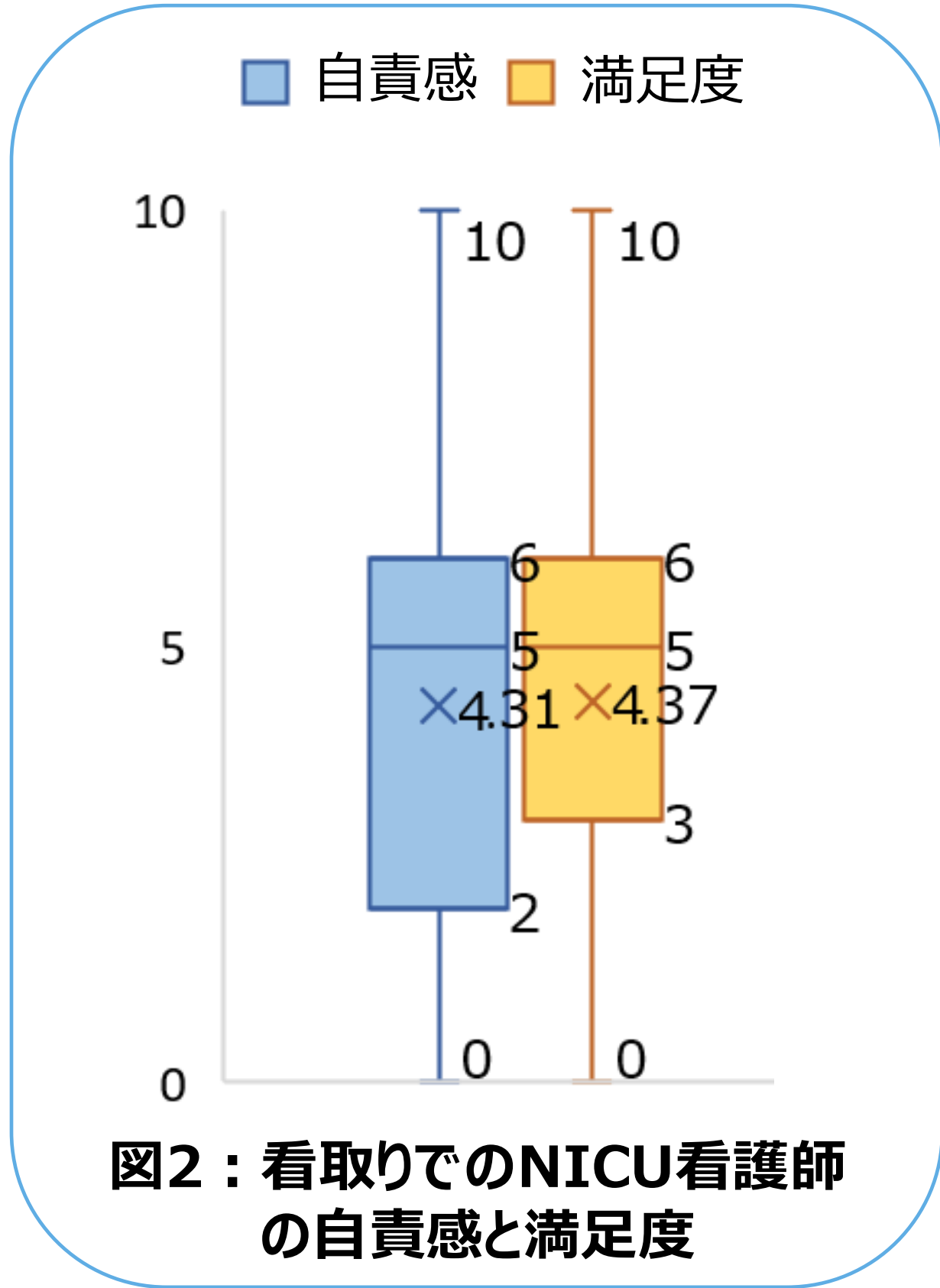
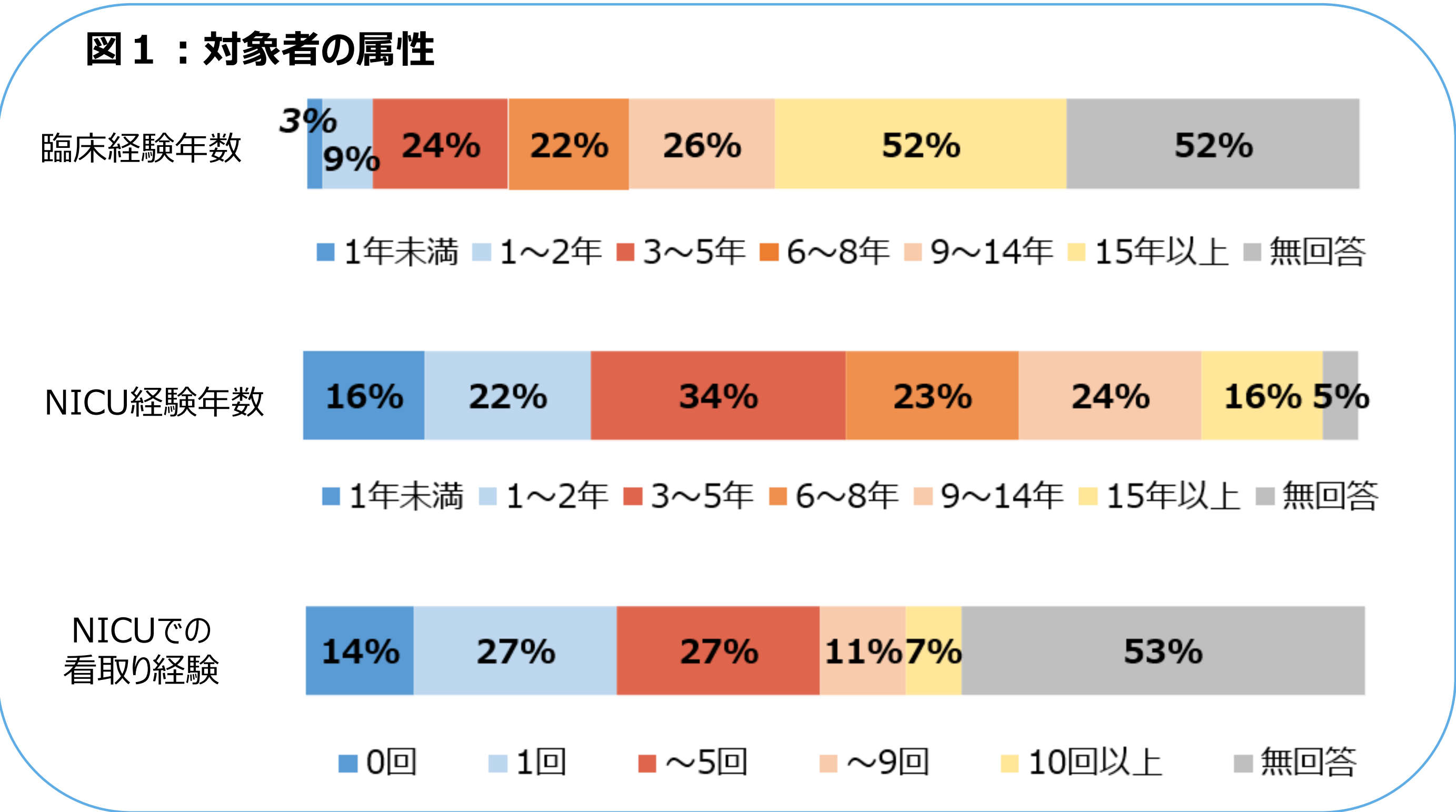
方法

- ・全国の周産期母子医療センターのNICUに所属する看護師に対して、自記式質問紙による調査を行った。
- ・主要調査項目は、看取りに対する自責感と満足度である。
- ・本研究は筑波大学の医の倫理委員会の承認（第1292）を得て行った。
- ・開示すべき利益相反関連事項はない。



結果

- ・有効回答数は322（61.3%）であった。



- ・看取りでの**満足度と自責感の間に有意な負の相関**（ $r=-2.28$, $p<.001$ ）を認めた。
- ・NICU看護師が満足感を得る看取りケアの条件は、**①コミュニケーションと看取りのプロセス ②家族中心のケアと絆の強化 ③家族の心の平穏と安定 ④家族からの肯定的なフィードバックと評価の共有**の 4カテゴリ から構成されていることが明らかになった（図3）

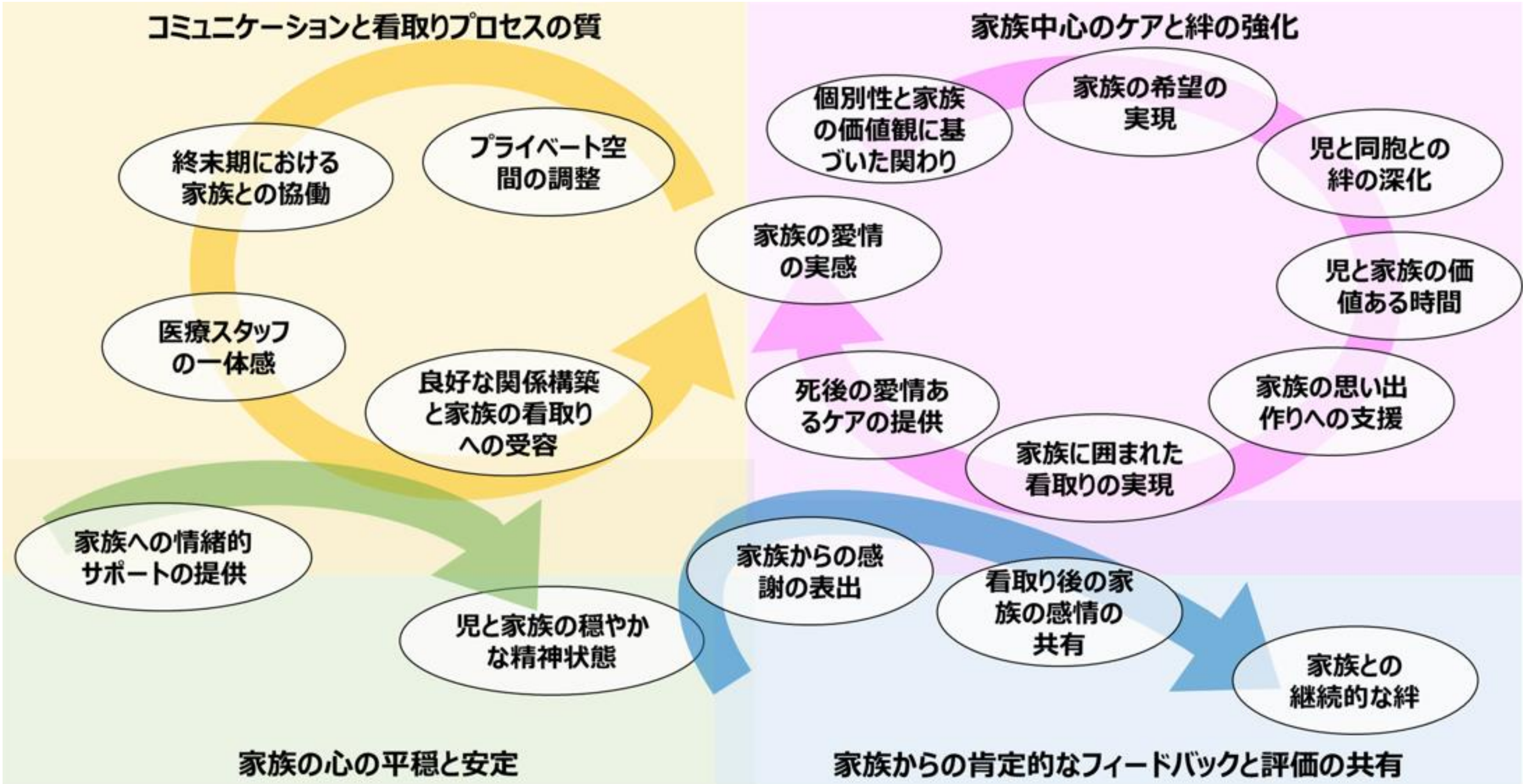


図3 : NICU看護師が満足度を得る看取りケアの条件

考察

- ・看取りケアでの満足度と自責感に負の相関がみられたことから、**看取りケアに対する満足度を高められれば、自責感が軽減する可能性**が示唆された。
- ・NICUという特殊な環境下において、【コミュニケーションと看取りのプロセス】を重視し、【家族中心のケアと絆の強化】を実践できることが【家族の心の平穏と安定】をもたらし【家族からの肯定的なフィードバックと評価の共有】があることでNICU看護師は看取りケアに対して満足感を得られることが示された。
- ・特に、家族の看取りに対する思いを共有することができることは、看護師自身のケアを振り返る機会となり、NICU看護師の困難感を軽減するために重要ではないかと考えられた。